

事件簿

今年2月の夕方、帰宅したら閉めたはずの玄関ドアの鍵が開いていました。不審に思いながら室内に入ると、ベランダの窓ガラスが割られて床に散乱。テレビやパソコンがなくなり、別の部屋もタンスが開けられ衣服が散らばっていました。一番安全であるはずのわが家がこんなふうに土足で踏み荒らされるなんて…。そのときの怖さは今も頭から離れません。

市内在住 匿名(女性)

留守中や就寝時などに、何者かに侵入され、金品を盗まれる「侵入窃盗」。金品の被害はもちろん、自宅を荒らされるショックは計り知れません。運悪く犯人と鉢合わせ、身体に危害を加えられる場合もあります。

侵入窃盗

23年の市内発生件数 955件※

※住宅を対象とする件数

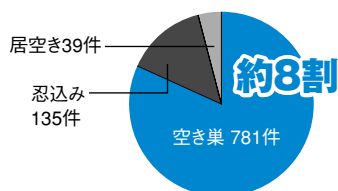


ここが危険！ 手口や傾向を分析

8割以上は「空き巣」

侵入窃盗のうち最も多いのは、留守宅を狙った「空き巣」。しかし、家人が在宅中でも、夜間寝ている間に侵入される「忍込み」や、日中テレビを見ている間などに侵入される「居空き」も少なくありません。

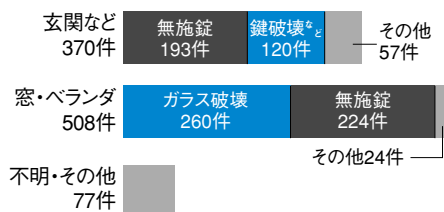
■侵入窃盗の手口(平成23年)



侵入の5割以上が「窓・ベランダ」から

侵入口は「窓・ベランダ」が半数以上で、「玄関」が4割ほど。どちらも無施錠が大きな原因です。また、玄関では「鍵の破壊」、窓・ベランダでは「ガラス破壊」による侵入が多発しています。

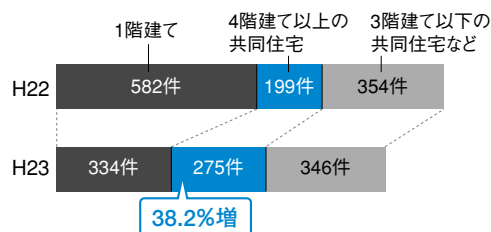
■侵入口と侵入手段(平成23年)



マンションなどでの犯行が前年比約4割増!

侵入が容易な一戸建てや低層の共同住宅での被害が多い中、昨年は4階建て以上の共同住宅に侵入する犯行が急増。「高い階だから大丈夫」という油断に、泥棒は付け込んできます。

■発生場所



なるほど! 泥棒の行動と心理



声を掛けられると、多くが犯行を諦める

犯行を諦めた理由で一番多いのは「近所の人に声を掛けられたり、じろじろ見られた」。泥棒は、さまざまな人の目がある連帯感の強い地域には寄り付きにくいのです。

多くがインターホンで留守を確認

多くの泥棒にとって、犯行の決め手は留守であること。意外にもインターホンで確認するケースが多いといいます。留守を悟られないことが犯行を防ぐポイントです。

侵入に5分かかると、7割が諦める

侵入に5分かかると7割の泥棒が諦め、10分以上かかると9割以上が諦めるといいます。被害を防ぐには、侵入に時間がかかるような対策をすることがとても有効です。

地域安全サポーターズ

企業が本業の活動や専門知識を生かして、防犯パトロールや啓発活動などに取り組む仕組みです。現在219社が登録し、地域の安全に貢献しています。



活動事例

チラシを配りながら
地域をパトロール

株式会社リッド

本業は、チラシなどを配るポスティング。約700人のスタッフが、チラシ配りの際に地域安全サポーターズの腕章を着けて、犯罪防止のパトロール活動を徒歩で行っています。



あなたの会社も参加しませんか?

「地域安全サポーターズ」への登録事業者を募集しています。

詳しくは区政課(2階)へお問い合わせ。